

### 日本三景 松島

#### ●特別名勝「松島」

松尾芭蕉が「おくのほそ道」で絶賛した日本三景の一つである松島は、東西約10km、南北約8kmの小湾に大小230余りの島が点在する多島海で、島々の白い岩肌と緑の松、青い海がおりなす妙景・絶景が人々を魅了する国内屈指の景勝地として知られています。

松島には、島々と松のおりなす美しい景観だけでなく、随所にみられる貝塚等の先住民の遺跡・遺構や瑞巖寺などの貴重な建造物が存在しています。それらの学術上の価値が高く評価され、大正12年に史跡名勝天然記念物保存法で名勝に指定、昭和27年には文化財保護法により特別名勝に指定されました。

また、瑞巖寺や五大堂、観瀾亭、雄島、福浦島などが存在する松島海岸周辺は、名勝指定に先立つ明治35年9月に県立公園に指定されており、日本における自然公園の草分け的な存在であったことがうかがえます。

#### 【コラム】

##### ～特別名勝～

文化財保護法に基づき指定された名勝のうち、特に重要（価値が高い）なものとして指定された文化財で、平成21年7月1日現在、全国では29件が指定されており、東北地方では松島他に十和田湖および奥入瀬溪流（天然記念物）、毛越寺庭園（特別史跡）の2件が指定されています。「松島」は、塩釜市、東松島市、松島町、利府町、七ヶ浜町の2市3町にまたがり、指定区域は、各市町の海岸に近い陸地部分と、それに抱かれるように点在する島々・海域を含め、約9,718ha（名取市とほぼ同じ面積）に及んでいます。

#### ●多島海の出現

松島は、約2万年前（後期旧石器時代の晩期）とされる最終氷期の最寒冷期には、海水面が現在より約100mも低い位置にあり、約9千年前（縄文時代早期）に至るまでは、海拔100～200m程度の起伏に富んだ丘陵地であったと考えられています。松島の多島海は、最終氷期の海面の低下により浸食されて尾根状になった松島丘陵が、その後の温暖化に伴う海面の大規模な上昇（縄文海進）によって海に飲み込まれ、海面より高い部分が島や岬となって残されたもので、海面がほぼ現在の水準に達した約6千年前頃（縄文時代前期）に、いまの形が出来上がったとされています。

高度が海拔30mを超えるのは宮戸島や寒風沢島、桂島など僅か7島で、7割以上の島々が海拔10m未満となっています。また、長径50m未満の島が6割超を占めるなど、小規模な島々が数多く存在することが特徴で、松島四大観からのパノラマや島巡りの船上からの仁王島や鷲島、兜島などの美島・奇島の妙景が人々を魅了しています。絶景のポイントとして知られる松島四大観は、江戸末期（文政年間）に、仙台藩の儒学者舟山万年が選定したとされる展望地で、それぞれの場所から松島湾を眺めた印象から、東の大高森からの「壮観」、北の富山からの「麗観」、西の扇谷からの「幽観」、南の多門山からの「偉観」と称されています。

＜ 大高森からの松島 ＞



写真提供：宮城県観光課

#### ●人々とのかかわり

##### ○縄文時代の貝塚群

松島はまた、東京湾、霞ヶ浦周辺と並ぶわが国有数の貝塚密集地域でもあります。松島に残る大規模な貝塚の存在が、この地域が豊かな森と良好な漁場に恵まれ、狩猟や漁労・採集を中心とした縄文期の人々にとって極めて魅力的な生活の場であったことを物語っています。人々と自然の係わりを知るうえで重要

な遺物等が豊富に確認されるこれらの貝塚は、考古学研究にとって全国的にみても大変貴重な存在となっています。

また、松島には弥生時代から平安時代にかけても、小規模ながら貝塚が存在しており、それらの貝塚では製塩が行われていたことが明らかとなっています。縄文時代晩期から古墳時代にかけて行われた土器製塩による塩の生産がその後も引続き行われ、現在の「塩竈」の地名や「鹽竈神社」の由来につながったとも考えられています。

### ○中世の霊場・雄島

松島はまた、宗教的な聖地としての一面をもっています。五大堂は平安初期の807(大同2)年に坂上田村麻呂が建立した毘沙門堂がその前身と伝えられており、瑞巖寺は828(天長5)年に慈覚大師による延福寺の開基にはじまります。このように聖地としての松島のはじまりは平安時代初頭にまで遡ります。鎌倉時代には仏教修業の聖地となり、各地で庵が営まれました。

特に雄島は、源頼朝夫人や鳥羽上皇とも関係が深い見仏上人の修行の地として、都の人々にも広く知られていたといわれています。雄島には、見仏上人の再来と称された頼賢を讃えた板碑「奥州御島頼賢碑」をはじめ、浄土往生を主な目的に作られたと考えられる約60基の板碑群や洞窟などが残されています。また、最近の調査では、周辺の海中から、明治時代以降の公園整備で廃棄されたとみられる約1千個もの板碑片が採集されており、浄土への入口とされ、高野山の奥の院のような霊場となっていた雄島の往時の姿が浮かび上がっています。

### ＜ 雄 島 ＞



写真提供：宮城県観光課

### ●文化遺産

平成19年に宮城県と地元2市3町は、特別名勝松島と貝塚、瑞巖寺などで構成する一連の文化資産(資産名「松島一貝塚群に見る縄文の原風景」)を、世界遺産候補として文化庁に提案しました。審査の結果、世界遺産指定には至りませんでした。国内有数の文化遺産としての価値があらためて評価されています。また、平成21年3月には、ミシュラン社の旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」(仏語版)で、松島全体と松島四大観および瑞巖寺の3カ所が三ツ星(わざわざ訪れる価値のある場所)に格付けされ、「自然であれ、人の手による建築物であれ、日本と世界からやってくる旅人たちを魅了します。」と紹介されています。

日本三景「松島」は、自然美の代表ともいべき特別名勝松島と、人工美(建築美)の代表でもある瑞巖寺をはじめとする建造物、数千年に及ぶ縄文人の生活を偲ばせる大規模な貝塚群など、卓越した自然景観と歴史的伝統を併せ持つ個性的な文化遺産です。これら貴重な地域資源の魅力が、観光振興など地域の賑わいへの一層の貢献につながることが期待されます。

「松島一貝塚群に見る縄文の原風景」の構成資産  
特別名勝：松島  
国史跡：大木囲貝塚、西の浜貝塚、里浜貝塚  
国宝：瑞巖寺本堂、同庫裏及び廊下  
国重要文化財：瑞巖寺御成門、同中門、同五大堂  
圓通院霊屋、奥州雄島頼賢碑  
県有形文化財：瑞巖寺総門、陽徳院霊屋、観瀾亭

### ＜ 瑞 巖 寺 ＞



写真提供：宮城県観光課

(注) 瑞巖寺本堂などは、平成21年9月から平成28年3月までの予定で保存修理事業(平成の大修理)が行われています。

(参考資料)・「松島町誌」 ・宮城県HP ・瑞巖寺HP ・新聞各紙 ほか